



新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る緊急事態宣言が、9月30日(木)まで延長されることになりました。学校は今週末の分散登校から始まり、来週は午前中登校、27日(月)～通常登校となります。21日(火)からは給食が始まり、特に感染リスクが高いといわれる給食指導については、配膳の工夫や食事前の手洗いの徹底をはじめ、食事時の飛沫防止等の対策が求められています。

本校では、11日(土)にPTA役員会が行われ、子どもたち個々に配膳のおぼんを用意することが了承されました。学校の感染症対策配当予算から支出をしますが、不足分をPTA会計から補填していただく事となりました。急な対応で申し訳ありませんが、ご理解・ご了承をお願いします。

また、30日(木)までの緊急事態宣言中は、平日の放課後及び土日祝の運動場の使用、校舎内の施設の使用はできませんので、合わせてご理解・ご協力をお願いします。

【令和3年度全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果】

5月27日(木)、小学校6年生と中学校3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。このほど、その結果が発表されたことを受け、本校の学力・学習状況について結果分析を行いました。また、5月26日(水)に4年生、5月27日(木)に5年生に対して「みえスタディ・チェック」の学力調査を行いましたので、今回はその結果に基づく本校の状況分析等について紹介します。(裏面に続きます)

令和3年度全国学力・学習状況調査からみられる本校児童(6年生)の特徴

【国語】 ※全体的には、県や国の平均正答率と同等でした。

無回答率は全体的に低く、子どもたちは意欲的に学力調査に取り組めたと感じます。記述式の問題(短答式、記述式共に)になると無回答率が上がり、記述することに対して、子どもたちが苦手になっていることが読み取れます。記述式の問題については、県や国の平均正答率と比べても6～11ポイント下回る結果となっています。

(強み) 知識及び技能の内容において、主語と述語の関係をとらえ、語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことや、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することには秀でています。

(弱み) 文章と図表とを結びつけたり、修飾と被修飾との関係をとらえたりすることについては苦手なようです。また、中心となる語や文を見つけて要約したり、文章全体の構成や展開を考えたりする力が弱いです。

【算数】 ※全体的には、県や国の平均正答率と比較すると4～5ポイント上回る結果でした。

無回答率は全体的に低く、意欲的に学力調査に取り組めたと感じます。国語と同様、記述式の問題になると、無回答率も上がり、苦手なことが読み取れます。

(強み) 数と計算、測定、データの活用領域において、県や国の平均正答率を5～6ポイント上回る結果となっています。時刻や棒グラフの読み取りには秀でたものがあり、データを分類整理したり適切なデータを選んだりする力が身についています。

(弱み) 図形領域に苦手意識を持っていて、県や国の平均正答率を3ポイント程度下回る結果となっています。図形領域においては、知識・技能の観点でも、県や国の平均正答率を5～10ポイント程度下回る結果となっています。



学習・生活状況調査からみられる本校児童(6年生)の特徴

基本的な生活習慣(朝食をとる、起床・就寝時刻)については、意識を持って取り組んでいる家庭が多く、県や国の調査結果を5～14ポイント上回っています。「自分には、よいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という問いについては、県や国の調査結果を15～20ポイント上回っていて、本校の子どもたちは自尊心(自己有用感)の高い子が多いことが伺えます。「学校に行くのは楽しい」「自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができる」「友だちと協力するのは楽しい」という問いについては、県や国の調査結果を11～21ポイント上回っていて、本校の子どもたちは、充実した学校生活を送れていることが伺えます。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人が困っているときは、進んで助けている」という問いについては、県や国の調査結果を10～15ポイント上回っています。学校生活の様子を見てみると、登下校時や休み時間などに上級生が下級生の面倒をよくみている姿があり、この調査結果がその裏付けとなっているように感じます。「国語・算数の学習は大切だと思う」という問いについては、県や国の調査結果を12～15ポイント上回っています。調査の回答から、家庭で計画を立てて学習している子どもたちも多く、意欲的に学習に取り組んでいる姿が伺えます。

しかしその反面、「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」「新聞を読んでいますか」という問いや「ICT機器を活用していますか」という問いについては、子どもたちの肯定的な回答が少なく、今後の本校の教育課題であると捉えています。



令和3年度みえスタディ・チェックからみられる本校児童（4,5年生）の特徴

【国語】

全体的に市の平均正答数と比較して、5年生は1.0ポイント、4年生は0.2ポイント上回る結果となりました。調査結果から、本校の子どもたちの問題形式別無回答率をみると、「選択式」では低く、「記述式」では高いことが見えてきました。このことから子どもたちは、問題文を理解し、何をどのように答えなければならないかという要旨をつかみ、自分の考えを文章で表現する力が弱いことが考えられます。その一方で「書くこと」については、市の平均正答率と比較して、上回る結果となっています。このことから、子どもによっては、問題をつかみ、文章で考えを表すことができている子と、問題をつかむところでつまづいている子とが大きくわかれていくことがわかります。

【算数・数学】

全体的に市の平均正答数と比較して、5年生は1.3ポイント、4年生は0.3ポイント上回る結果となりました。調査結果から、本校の子どもたちの問題形式別無回答率をみると、国語と同様、「選択式」「短答式」では低く、「記述式」では高いことが見えてきました。このことから子どもたちは、問題の内容をつかみ、自分の考えを文章や式を用いて表現する力が弱いことが考えられます。また、4年生と5年生に共通しているのは、「測定」の領域では正答率が高いということです。このことから、時刻や時間に関する学習内容が定着している子どもが多いことがわかります。

【理科】

全体的に市の平均正答率と比較して、5年生は0.9ポイント上回る結果となりました。領域別の正答率をみると、「エネルギー」では大きく市の平均正答率を上回っています。このことから、正しい回路のつなぎ方や検流計など、実験器具の使い方を概ね理解できているといえます。その一方で、「生命」「物質」の領域の本校の子どもたちの平均正答率は50%を下回っています。腕が曲がる仕組みや空気の体積の変化に関わる理解が低いことが明らかになりました。

これらの調査問題の趣旨等を踏まえて（考察）

～ 指導の工夫と改善に関わって ～

- 「書くこと」に関する力を伸ばすために、普段の授業で繰り返し取り組ませていきたい。
- 図形領域については、基礎基本を押さえるとともに、多様な考えを引き出せるようにしたい。
- 授業においては、どの子も意欲を持って主体的に参加できる授業を創造していきたい。
- 現在、低・中・高学年別に、年間1人1回の提案授業を行い、授業実践研究を行っている。授業の中で、「めあて」「振り返り」をしっかりと子どもたちに意識させたい。

～ 学習習慣の確立と学力補充の充実に関わって ～

- 引き続き家庭学習の定着を図るため、家庭学習の手引きを保護者に配付し、子どもたちに自主的な学習習慣が身に付くように促していきたい。
- 自ら学ぶ習慣や、知識を活用する力をつけるために、自分でメニューを考えて行う自主学習（桜台小「プラスワン」）を継続していきたい。またそれを校内掲示し、学習意欲を持たせたい。
- 夏季休業中を利用し、3～6年生を対象とした補充学習を継続して実施していきたい。
- 今後、タブレット端末の持ち帰りが推進されていくことを受け、活用について考えていきたい。

（文責 北住 昌文）

